

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23401037

研究課題名(和文) 現代スペインにおける巡礼の興隆と観光のダイナミズムに関する人文地理学的研究

研究課題名(英文) Geographical study on the dynamism of pilgrimage and tourism in Spain

研究代表者

松井 圭介 (MATSUI, Keisuke)

筑波大学・生命環境系・教授

研究者番号：60302353

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円、(間接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、脱カトリック化が顕著とされる現代スペインにおいて、カトリック聖地への巡礼を支えている宗教的ツーリストの行動とスペインの観光空間の構造について、実証的な研究を行った。サンティアゴ・デ・コンポステラ巡礼の参与観察調査を、ガリシア州、カスティーリャレオン州、およびバスク州の諸都市で実施した。あわせてスペインの観光動態に関する資料収集を行い、宗教資源、観光資源としてのサンティアゴ巡礼路と巡礼宿、そしてそれら全体から構成される巡礼システムについて、解明を試みた。

研究成果の概要(英文)：In this study, we have tried to make clear some characteristics of the spatial structure of tourism in Spain in terms of the behavior of religious tourists. We made some geographical field work surveys on both religious resources and tourism resources. As a result, we accomplished to get useful data of the religious tourism in modern Spain.

研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：スペイン 聖地巡礼 観光動態 ポスト世俗化 カトリック サンティアゴ・デコンポステラ

1. 研究開始当初の背景

(1) **ヨーロッパの宗教社会史的位相**：ヨーロッパは政治的、経済的、社会的にもきわめて多様であり、地域的な差異も明瞭であるが、同時にヨーロッパ文化の基礎付けとしてのキリスト教の重要性はますます重要になっている (Reader 2007)。キリスト教は芸術、文学、音楽、哲学など西洋文明の基礎であり続けてきたが、キリスト教の景観的表象である大聖堂や十字架像、宗教的彫像を除いてヨーロッパの文化遺産を考えることはできず (Jordan 1988)、現代においてもヨーロッパ全域において、キリスト教が文化的に大きな影響力を有していることは間違いない (Jordan 2002)。

(2) **ポスト世俗化論**：1960～70年代にかけて、ヨーロッパ地域では宗教の世俗化に関する議論が頻出した。教会出席率の低下や聖職者志願率の低下が顕著となり、ニューエイジの台頭やスピリチュアルなものへの関心が興隆するなど、「宗教は公的領域から私的領域へと撤退する」というパラダイムが立てられた (岡本 2009)。ところが1980年代以降、イスラム原理主義の伸張をはじめとする世界各地での原理主義的、宗教リバイバル運動の動きが明瞭となり、「宗教復興」ともいべき現象が顕著となった (Stump 2000)。ポストモダンの状況にある現代ヨーロッパ地域を理解する上で、本研究が重視する枠組みは、「世俗化論と宗教復興論の相克」である。すなわち脱カトリック化 (世俗化) がすすむ一方で、カトリックの聖地が新たな中心地として多数の訪問者をひきつける社会現象は何を意味するのかという視点である。

(3) **聖地巡礼とツーリズム**：このように制度的宗教の面では脱キリスト教化がすすむスペインにおいて、一方ではカトリックの聖地に対する巡礼が盛行をみている。このような現象は「宗教ツーリズム」(松井 2009) という性格を強く持ち、カトリック的な宗教実践とは別の社会的文脈で、宗教的聖地を徒歩や馬、自転車などで巡礼するという行為がヨーロッパの特に若年層の人々の間で受容されている (西海 1999; Gonzalez and Medina 2003; 横田 2007; 岡本 2009 など)。宗教ツーリズムに支えられたカトリック巡礼の盛行は、スペイン・サンティアゴ巡礼だけでも相当数の書物が出版されており、スペインのみならず現代ヨーロッパの地域社会と宗教との関わりを解明する上で重要な研究対象となるものと考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、ヨーロッパの文化的核心をなすカトリック地域、なかでも宗教の世俗化が進み、脱カトリック化が顕著とされる現代スペインにおいて、カトリック聖地への巡礼が興隆している現象に焦点をあて、現代の巡礼を支えている宗教的ツーリストの行動とス

ペインの観光空間の構造について明らかにする。具体的には、サンティアゴ・デ・コンポステラ巡礼の参与観察調査を行い、宗教資源・観光資源としてのサンティアゴ巡礼路と巡礼宿、そしてその全体から構成される巡礼システムを現地調査により実証的に解明することを通して、伝統的な聖地が再構築されている状況の解明を目的とする。さらには、聖地巡礼の維持・発展とツーリズムとの関わりの理論的な検討を通して、ヨーロッパ・カトリック地域における宗教をとりまく現代的状況が顕著となり、宗教の衰退と復興にかかわる人文学におけるポスト世俗化論の進展を企図している。

3. 研究の方法

(1) **ヨーロッパ・カトリック地域におけるポスト世俗化論に関わる理論的枠組の構築**：ヨーロッパにおける巡礼のポリティクスにかかわる社会・文化・観光地理学的研究の研究成果および研究動向を整理し、研究視点や概念、研究方法について検討する。

(2) **巡礼をめぐるホスト・ゲスト・プロデューサーの相互作用の解明**：各研究対象地域において、ホスト、ゲスト、プロデューサーの巡礼に対する相互作用を詳細に分析することにより、聖地巡礼の創造・再構築の過程を実証的に明らかにするとともに理論化・モデル化を目指す。

(3) **巡礼の創造・再構築の現代的意義の究明**：上記(2)で得られた実証的な成果をもとに、ポスト世俗化社会において巡礼が創造・再構築されることの意義を究明する。サンティアゴ巡礼において、それを支える地域社会にどのような影響を与えているのかを考察する。

4. 研究成果

本研究では、ヨーロッパの文化的核心をなすカトリック地域、なかでも宗教の世俗化が進み、脱カトリック化が顕著とされる現代スペインにおいて、カトリック聖地への巡礼が隆盛している現象に焦点をあて、現代の巡礼を支えている宗教的ツーリストの行動とスペインの観光空間の構造の解明に取り組んできた。

平成 23-25 年度において、以下の研究成果を得た。

(1) 収集資料の整理と理論的枠組みの提唱：平成 23～25 年度の 3 か年で収集した資料を整理し、巡礼とツーリズムにおける理論的な枠組みに関する学術論文 (『観光戦略としての宗教』(筑波大学出版会)、『Geography of religion in Japan』Springer) を発表した。

(2) 現地調査の実施：研究代表者および分担者は手分けをして、サンティアゴ・デ・コンポステラ巡礼地に関するフィールドワークを複数回実施し、聞き取り調査および資料収集を行った。フィールドワークではサンティアゴ大学歴史・地理学部の研究者および大学

院生の協力を得た。

(3) 研究成果の公開：研究成果の一端を International Geographical Union(国際地理学連合)の Kyoto regional conference で口頭発表するとともに、国内外の研究者と意見交換を行った。また社会貢献の一環として、目黒シティカレッジ(東京都目黒区)において研究成果を講演した。3か年の研究成果は今後、収集資料を整理しつつ継続的に進めていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計17件)

久保倫子・益田理広・山本敏實・卯田卓矢・石坂 愛・神 文也・細谷美紀・松井 圭介、茨城県日立市における地域コミュニティと住民による東日本大震災後の防災対策、都市地理学、査読有、9、2014、58-71

卯田卓矢・石坂 愛・上野李佳子・矢ヶ崎太洋・松井圭介、常総市大塚戸町における一言主神社信仰の特性、地域研究年報、査読無、36、2014、139-167

益田理広・碓井達哉・川村一希・久保亮文・柳カイ・松井圭介、メンタルマップを用いた歩行回遊性評価—茨城県常総市水海道地区を事例に—、地域研究年報、査読有、36、2014、35-54

松井圭介・兼子 純、大学院におけるフィールドワーク教育の実践—筑波大学人文地理学・地誌学教室の事例—、人文地理学研究、査読無、34、2014、107-125

Sato, D. 2014. Summering in Japanese hill stations: an analysis of villa ownership in modern Karuizawa. Annals of Leisure Research. 17:50-70. 査読有

呉羽正昭、人文地理学のフィールドワークにおけるデータ収集法の検討—フィールドワークをめぐる関係構造に着目して—、人文地理学研究、査読無、34、2014、87-94

呉羽正昭、日本の観光地理学研究におけるフィールドワークに関する一考察、人文地理学研究、査読無、34、2014、95-106

石井久生、バスケット系羊飼によるバスケット地方とアメリカ合衆国西部間の移住行動—ナバラ州バスタンの羊飼いの事例、国立国際研究、査読無、31、2014、37-61

Matsui, K., Kaneko, J., Hashimoto, A. and Oishi, T. 2013. Fieldwork Education Practice in Graduate Schools: A Case Study on Human Geography and Regional Geography Classes at the University of Tsukuba. Tsukuba Geoenvironmental Sciences 9:21-29. 査読有

Uda, T., Mashita, M., Hosoya, M., Jin,

J., Kubo, T. and Matsui, K. 2013. Discussions on the regional characteristics of the Jodo Shinshu (True Pure Land Buddhism) association in the Kurobe River alluvial fan - A case study of Doichi, Nyuzen Town. Tsukuba Geoenvironmental Sciences. 9:3-11. 査読有

卯田卓矢・益田理広・金 錦・細谷美紀・久保倫子・松井圭介、黒部川扇状地における浄土真宗の講組織の構造—入善町道市地区を事例として—、黒部川扇状地、査読無、38、2013、88-93

佐藤大祐、学界展望(ツーリズム)、人文地理、査読有、65、2013、251-253

佐藤大祐、キリシタンと現代の教会巡礼—長崎の文化層序と観光商品化—、交流文化、査読無、14、2013、34-41

Kikuchi Toshio, Maruyama Shigenori, Inazaki Tomio, Kumaki Yota, Kureha Masaaki, Sano Osam, Sugai Toshihiko, Marui Atsunao. 2013. Introduction to the Special Issue on "Tokyo: Past, Present, and Future (Part I)". 地学雑誌 122:913-915. 査読有.
<http://dx.doi.org/10.5026/jgeography.122.913>

菊地俊夫・丸山茂徳・稲崎富士・熊木洋太・呉羽正昭・佐野 修・須貝俊彦・丸井敦尚、東京 過去・現在・未来 (Part I)、地学雑誌、査読有、122、2013、916-920、<http://dx.doi.org/10.5026/jgeography.122.916>

石井久生、制度により構築される言語景観—バスケット州とナバラ州における基礎自治体改名の実践、国立国際研究、査読無、30、2013、39-61

岡本亮輔、フェイクが生み出す真正性—青森県新郷村「キリストの墓」の聖地観光、哲学・思想論集、査読無、30、2013、39-61

[学会発表](計14件)

卯田卓也・矢ヶ崎太洋・石坂 愛・上野李佳子・松井圭介、参拝行動からみたニュータウン地区の特性—常総市内内守谷町きぬの里を事例として—、2014年日本地理学会春季学術大会、2014年3月28日、国土館大学

堤 純、2014 シドニーにおけるジェントリフィケーション、日本地理学会春季学術大会、2014年03月28日、国土館大学

堤 純 他5名、2014、地理教育用AR(拡張現実)情報システム(3)、日本地理学会春季学術大会、2014年03月27日~2014年03月28日、国土館大学

呉羽正昭、オーストリアにおけるスキーリゾートの発展傾向—チロル州・ゼルデンの分析を中心に—、日本スキー学会第24回大会、2014年03月18日、休暇村妙高(新潟県)

岡本亮輔、聖地巡礼とツーリズム、The 9th Annual Conference of The Asian Studies of Hong Kong(ASAHK)、2014年03月14日
石坂 愛・卯田卓也・上野李佳子・矢ヶ崎太洋・松井圭介、茨城県常総市・一言主神社信仰の空間構造とその特性、2013年日本地理学会秋季学術大会、2013年9月28日、福島大学

岡本亮輔、地域振興と聖地戦略 青森県新郷村キリストの墓の事例、日本宗教学会第72回学術大会、2013年09月08日、國學院大學

Matsui, K. Discussion on the religious tourism in remote islands, Japan. IGU2013 Kyoto regional conference. 2013年8月8日. 京都国際会館

Maruyama, M., Jung, O. and Sato, D. Characteristics of Foreign Visitors to Unzen and the Competition among Summer Resorts in East Asia. Kyoto Regional Conference of IGU 2013年8月8日 京都国際会館

Tsutsumi, Jun. 2013 Urban social process in the Sydney metropolitan area, Australia. IGU2013 Kyoto Regional Conference. 2013年08月06日. 京都国際会館

Mashita, M., Uda, T., Jin, J., Hosoya, M., Kubo, T. and Matsui, K. Nyuzen town. IGU2013 Kyoto regional conference. 2013年8月5日. 京都国際会館

Matsui, K., Kaneko, J., Hashimoto, A. and Oishi, T. Discussion on some aspects of fieldwork education through a case study of graduate school of the Univ. of Tsukuba. Kyoto regional conference. IGU2013 Kyoto regional conference. 2013年8月5日. 京都国際会館

Kureha, Masaaki. A discussion on field work in geographical studies on tourism in Japan. IGU2013 Kyoto Regional Conference. 2013年08月05日. 京都国際会館

Kureha, Masaaki. Changes in ski resorts through the development of inbound tourism in Japan: A case study of Niseko-Hirafu district, Hokkaido. IGU Pre-Conference Meeting of Commission on the Geography of Tourism, Leisure and Global

Change. 2013年08月01日. 立命館アジア太平洋大学(別府市)

[図書](計11件)

Kubo, T., Yamamoto, T., Mashita, M., Hashimoto, M., Greger, K., Waldichuk, T. and Matsui, K. 2014. *Risk and*

Conflicts: Local Responses to Natural Disasters (Community, Environment and Disaster Risk Management, volume 14). Emerald Books. 278(11-42)

藤井正・神谷浩夫編著(堤 純)2014、『よくわかる都市地理学』、ミネルヴァ書房、213(112-113)

Matsui, K. 2013. *Geography of religion in Japan: Religious Space, Landscape, and Behavior (International Perspectives in Geography)*. Springer. 199

高橋伸夫・菊地俊夫・根田克彦・山下宗利編(松井圭介)2013、『都市空間の見方・考え方』、古今書院、159(89-95)

人文地理学会編(呉羽正昭)2013、『人文地理学事典』(執筆項目:観光資源と観光開発)、丸善出版、761(544-545)

井田仁康編(呉羽正昭)2013、『究極の中学校社会科-地理編』(執筆項目:チロルの景観:観光業と農業の共生)、日本文教出版、227(88-89)

高橋伸夫・菊地俊夫・根田克彦・山下宗利編(菊地俊夫・堤 純)2013、『都市空間の見方・考え方』、古今書院、159(32-40)

丸山浩明編(堤 純)2013、『ブラジル』、朝倉書店、176(169-171)

人文地理学会編(堤 純)2013、『人文地理学事典』、丸善出版、761(338-341)

土屋 純・兼子 純編(堤 純)2013、『小商圏時代の流通システム』、古今書院、241(74-76)

愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会編(浅川泰宏)2013、『巡礼の歴史と現在 - 四国遍路と世界の巡礼』、岩田書院、341(127-144)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松井 圭介 (MATSUI, Keisuke)
筑波大学・生命環境系・教授
研究者番号: 60302353

(2) 研究分担者

佐藤 大祐 (SATO, Daisuke)
立教大学・観光学部・准教授
研究者番号: 20405616

呉羽 正昭 (KUREHA, Masaaki)
筑波大学・生命環境系・教授
研究者番号: 50263918

石井 久生 (ISHI, Hisao)
共立女子大学・国際学部・教授
研究者番号: 70272127

堤 純 (TUTUMI, Jun)
筑波大学・生命環境系・准教授
研究者番号: 90281766

浅川 泰宏 (ASAKAWA, Yasuhiro)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授
研究者番号：90513200

(3)研究協力者

岡本 亮祐 (OKAMOTO, Ryosuke)
慶応義塾大学・文学部・非常勤講師